令和6年度 学校評価（生徒）

あてはまらない→1 あまりあてはまらない→2 ややあてはまる→3 あてはまる→4

	評価項目	回答(%)				あてはまらない	あまり	やや	よくあてはまる
		1	2	3	4				
2	家庭での学習は定着している。	30	35	27	8				
3	進路決定に向けて先生方は情報を提供してくれたり、相談にのってくれるなど、きめ細かく指導してくれている。	6	13	48	33				
4	科目選択に関してが「が」が充実している。	8	14	52	27				
5	各種の資格・検定の受験率や合格率向上のための指導を十分してくれている。	5	18	42	34				
6	授業の中でICT機器（クロムブック）や視聴覚教材（動画や音声）がよく使用されている。	4	6	37	52				
7	内容がわかりやすく魅力ある授業が多い。	6	18	53	22				
8	学習の評価はテストの得点だけでなく、授業態度や生徒の努力なども含めて行われている。	5	7	39	49				
9	学校で地震や火災などの災害が起こった場合、どのように行動すれば良いか知らされている。	6	10	40	44				
10	学校の施設・設備は授業や学校生活がしやすいよう整備されている。	12	18	44	25				
11	地域の人は学校に関心を持っていると感じることが多い。	13	26	42	19				
12	社会のルールや日常生活のマナーといった基本的な生活習慣が身に付くよう先生は指導してくれている。	8	12	42	38				
13	学校は奉仕活動やボランティア活動などに積極的に取り組んでいる。	8	16	43	33				
14	学校生活に関する指導方針や指導方法について納得できる。	13	18	40	28				
15	先生に悩みや相談がしやすい雰囲気がある。	12	15	45	28				
16	先生は自分たちの意見を大切にしてくれていると感じる。	10	11	47	33				
17	学校の部活動は活発である。	12	14	45	29				
18	人権の大切さを学び、それが日常生活に活かされている。	10	12	45	33				
19	感動できる学校行事があり、楽しく参加できるよう工夫されている。	9	12	45	34				
20	科目選択は興味、関心、適正、進路希望に応じて選択できるようにしてくれている。	7	8	50	35				
21	LHRの時間をクラスづくりなどに有効に利用している。	8	14	45	33				
22	特色のある学校を目指していると感じる。	12	15	46	27				
23	総合学科の生徒として自ら考え行動できるようになった。	8	10	52	30				
24	緑陽生として誇りを持っている。	16	16	44	24				

0% 20% 40% 60% 80% 100%

令和6年度 学校評価（保護者）

あてはまらない→1 あまりあてはまらない→2 ややあてはまる→3 あてはまる→4

	評価項目	回答(%)				あてはまらない	あまり	やや	あてはまる
		1	2	3	4				
1	子どもの家庭での学習は定着している。	13	42	35	9				
2	進路決定に向けて情報を提供してくれたり相談にのってくれるなど、きめ細かい指導がなされている。	2	22	55	22				
3	科目選択の担任による面談や相談は、きめ細かく行われていると感じる。	2	25	52	21				
4	子どもは授業の内容を理解しているようだ。	3	26	61	10				
5	学習の評価はテストの得点だけでなく、授業態度や子どもの努力なども含めて行われている。	0	8	55	37				
6	生活面はもちろん、施設や設備面も含め、子どもを安心して任せられる学校である。	2	17	60	21				
7	子どもの出欠や学習状況など学校生活について家庭への連絡がよくなされている。	3	17	58	23				
8	学校は家庭からの連絡や相談に適切に対応している。	3	7	58	32				
9	保護者面談は回数、質ともに満足できる。	1	9	51	39				
10	保護者や地域の人々が積極的に参加できるように学校行事を工夫している。	1	19	56	24				
11	保護者は学校に関心を持っていると感じることが多い。	4	35	53	9				
12	学校はPTA活動に対して支援・促進に努めている。	1	24	61	14				
13	社会のルールや日常生活のマナーといった基本的な生活習慣が身に付くよう学校は指導している。	3	17	58	22				
14	学校は奉仕活動やボランティア活動などに積極的に取り組んでいる。	0	15	59	26				
15	学校の生徒指導方針に共感、理解できる。	6	20	57	17				
16	教員は、子どもの相談、質問等に的確に対応している。	3	16	59	21				
17	教員は、子どもの多様な意見を大切にしている。	5	20	57	18				
18	学校の部活動は活発である。	3	29	47	21				
19	学校は全ての教育活動について生徒の人権を尊重する姿勢で教育にあたっている。	3	19	59	19				
20	楽しく参加できるよう、学校行事は工夫されている。	1	11	62	26				
21	選択科目は興味、関心、適性、進路希望に応じて選択できるようになっている。	1	8	62	29				
22	特色のある学校を目指していると感じる。	4	20	60	16				
23	子どもは高校生として自ら考え行動できるようになっている。	0	16	59	25				
24	子どもは備前緑陽高校の生徒として誇りをもっている。	5	28	49	19				

0% 20% 40% 60% 80% 100%

令和6年度「具体的な学校経営目標・計画」

岡山県立備前緑陽高等学校

- 基本方針：魅力発信力の強化 ①生徒たちの自己肯定感・緑陽「ライト」の育成(生徒ロム発信)
②地域連携活動や広報活動の充実(直接的発信)

(1) 「分かる・できる」授業づくりの確立を目指し、授業力の一層の向上に向けた取組を推進して、生徒の学習意欲を喚起するとともに、安全で安心な学習環境を整備する。

担当	具体的方策	達成基準	達成状況	評価
教務課	生徒の学習意欲を喚起するため、ICTを積極的に活用した「分かる・できる」授業づくりを推進する。授業力アップ推進チームを中心に教員研修や授業公開を企画、運営し、生徒アンケートの結果を教員間で適切に共有するとともに、Chromebookや生成AIの利活用に関する研修を企画、実施し、教員の一人一台端末活用スキルを向上させる。	学校評価アンケート(生徒)の項目「内容がわかりやすく魅力ある授業が多い」の肯定回答が70%以上(平均2.9以上)となる。	授業に関するアンケート(前後期)の集計・分析結果資料を作成し、職員間で共有した。授業力アッププロジェクト教員研修(第1・2回)でClassroomの積極的な活用に関する研修、及び心理的安全性と学習者エンゲージメントの関係に関する研修を実施した。学校評価アンケート(生徒)で「内容が分かりやすく魅力ある授業が多い。」の総計平均は2.9であった。	A
教務課(図書)	図書の購入・除籍を計画的に実施したり、購入図書のリクエスト箱を設置し、多様なジャンルの本を整備することで、生徒が読書に親しめる環境を整える。	図書の貸し出し数(生徒)が500冊以上になる。	規購入図書数416冊(1/15現在、昨年382冊)で図書資料の充実を図った。うち生徒の直接のリクエストに応じて購入した図書が約10%を占める。除籍については現在校内で確認中。貸出冊数は対生徒621冊、教職員210冊の計831冊(1月15日現在)で前年の524冊を大きく上回った。	A
生活課	全校生徒が、元気な声で心のこもった気持ちの良いあいさつができるようになる。教員側から生徒の手本になるあいさつをする。	ほぼ全員(95%以上)の生徒が、自ら元気な声で心のこもった気持ちの良いあいさつができるようになる。	自ら進んであいさつができる生徒もいるが年々少なくなってきている。教員側からあいさつをすれば、ほとんどの生徒はあいさつを返すことができているので、自分から進んであいさつができる生徒が増えるように促していきたい。	B
生活課(厚生)	校内美化活動を通じて安全で安心な環境を整える。ボランティア・美化委員会を中心とする活動の活性化、全員清掃の徹底、安全点検の定着(教員)、防災訓練の実施を行う。	安全点検が確実に実施され、整備が必要な箇所が減少する。	花壇の管理は、生徒も参加することができた。緑陽祭では、生徒が主体となり環境美化の活動を実施できた。全員清掃を目標にしているが、課題が残る。安全点検は、故障してから対応となった。防災訓練は1回実施した。	B
進路課	進路希望に応じた補習などの指導を実施し、教務と連携して、学習習慣の育成と学力の向上を図る。3年生の進路希望を実現する。課題等の学習により、家庭での学習時間について、学年の数字時間を目標とする。基礎力診断テスト結果に基づき、生徒個々に応じた学習課題に取り組みさせる。進路希望ごとの試験対策補習等を実施し、学力と面接力を育成する。	・学習時間調査の平均学習時間(1・2年)が、昨年度の1年2.48h、2年2.15hを超える。 ・国公立大学に2名以上合格する。 ・就職希望者内定率を卒業までに100%達成する。	国公立大学3名合格(2/1現在) 就職希望者内定率 97.6%(卒業未確定者は除く) 平均学習時間 1年R5:0.70h→R6:0.72h/2年R5:0.54h→R6:0.52h(基準を第2回基礎学力診断に変更) 通常時の授業外学習時間を集計したので、考査前よりさらに数値が低い。学習習慣の定着を目標に来年度は関係課・科・学年団とも協力して取り組みたい	B
びぜんのまち活性化プロジェクト推進室	「産業社会と人間」「びぜんみらい学」において、連携団体と協力して探究活動や発表を行い、生徒の探究意欲を喚起する。	・校内外の連携組織の協力体制を整理する。 ・フィールドワークや発表の機会を各1回以上確保する。 ・探究意欲、基礎的・汎用的能力、主体的・協働的に学ぶ態度のアンケート項目において、肯定回答が70%以上となる。	備前市産業フェスタの協力、1年次では8月に卒業生講演会、2年次生では6月に市内フィールドワーク・地元企業と連携したゼミによる課題探究、3年次生では各ゼミ活動、および最終報告会を実施した。PBLフォーラムなど校外で発表できた。「活動に参加する・自覚が持てる」などに対する回答で肯定的な回答が大半であった。	A
学年団	1年: 基本的な生活習慣の確立 2年: 基本的な生活習慣の確立と維持 3年: 進路実現に向け、時間をかけた具体的な行動を促す	1年: 始業前着席・5分前集合、課題提出期限厳守、欠席ゼロの生徒が25%以上 2年: 始業前着席・5分前集合、課題提出期限厳守、欠席ゼロの生徒が30%以上 3年: 定期考査前学習時間120分以上の割合50%以上、OS・職場見学に複数回参加が80%以上 就職補習やサタセミへの出席率80%以上	1年: 始業前着席及び課題提出指導は概ねできている。欠席ゼロの生徒28名(25%)。 2年: 始業前着席は概ねできているが、課題提出期限厳守はできていない。 欠席ゼロの生徒35名(30%)。 3年: 平均学習時間120分以上45名(42%)、OS・職場見学複数回参加 72% 就職補習やサタセミへの出席率90%以上	1年 A 2年 B 3年 B

(2) 教育活動全般や地域連携活動を通して人間力の育成を図るとともに、生徒の主体的な活動を支援する。

担当	具体的方策	達成基準	達成状況(2月1日時点)	評価
教務課	生徒の自己肯定感を高め、学びに向かう力、人間性等を涵養するために、形成的評価を重視した「指導と評価の一体化」の仕組みを整え、緑陽型学習指導のスタンダード(改訂版)を基盤にした学習指導を推進する。	2学期末の観点別評価で全評価における「C」の割合が5%未満。	観点別評価の適正化のために資料を作成して職員会議で周知し、各教科で評価方法の工夫や手順の確認。授業力アッププロジェクト教員研修(第1回)で形成的評価に関する研修を実施。2学期末の観点別評価で全評価における「C」の割合は8.3%であった。	B
広報情報課	「生徒の顔が見える広報活動」で、中学生や地域に信頼され、進んで進学したいと思われる学校となる。	オープンスクール動員160名以上、HP更新20件、ブログ更新50件、新系列ポスター4種類以上作成、生徒会Instagramとブログの連携システムを構築。	オープンスクールは、生徒会生徒を中心にボランティアスタッフ61名、授業補助63名で実施。オープンスクール動員数246名(中3生191名/中2生 55名)。出前授業6件。HP更新20件、ブログ更新106件、新系列ポスターを5種類作成。生徒会Instagramとブログの連携システムの構築は検討にとどまった。	B
生活課	・主体的な行動や人間力向上の支援により、学校の活性化を図る。 ・チャイム前着席が100%できるようになる。 ・部活動加入率が前年度を上回る。	・チャイム前着席が100%できるようになる。 ・前年度の部活動加入率を上回る。(R4:59.1%)	大多数の生徒が開始のチャイム前に教室に入り、授業の準備をして着席できている。時間を意識して行動してきている生徒が多いのでその雰囲気作りを今後も大切にしたい。 ・部活動加入率 R6:54.5% R5:54.1%	B
進路課	・Bプロ室および広報情報課と連携する中で、キャリア教育、地域連携活動、社会体験活動を推進することで、進路意識を高め、早い時期での進路目標の設定を図る。 ・表現力、コミュニケーション力をさらに向上させるとともに社会人としての良識を身につけさせる。 ・進路に関する情報や指導内容の情報提供を積極的に行うとともに、自らが行動できるように担任等を援助していく。	・2年生のインターンシップ参加10名以上 ・学校評価アンケートの「進路決定の指導」の評価が前年度平均を上回る。(R4:生徒・保護者80%)	インターンシップ参加2年27名、12月備前商工会議所主催企業見学ツアー 1年11名2年19名参加。 合計 47名(1年11名・2年36名) 学校評価アンケート項目「生徒における進路決定の指導」R5(3.1)→R6(3.1) 昨年度並みの数値とはなっているが、来年度は生徒・保護者への情報発信について、重点的に行ってきたい。	B
びぜんのまち活性化プロジェクト推進室	校内および地域と連携し、社会貢献活動に取り組むことをとおして、地域を愛し貢献する態度を育成する。	・社会貢献活動の制度を再構築する。 ・アンケートによる地域を愛し貢献する態度の項目において、生徒の肯定的回答が90%以上	「社会貢献活動に参加または参加するとすれば、社会の一員としての自覚を持てると思いますか?」肯定回答92.5%、「社会貢献活動に参加または参加するとすれば、地域を愛し貢献しようという気持ちになるとは思いますか?」肯定回答89.9%	A
学年団	1年: 生徒の主体的な活動を促す。 2年: 生徒の主体的な活動を促す。 3年: 自らが主体となって、学校生活を充実させてようとする意識を持たせる。	1年: 部活動加入率60%以上、社会貢献活動参加100% 2年: 「頑張ったこと」として、学校行事、社会貢献活動、部活動をあげる生徒が60%以上 学校説明会やインターンシップに参加した生徒50%以上 3年: 生徒主体での行事の実施、社会貢献活動参加100%	1年: 部活動加入率67名(60%)、社会貢献活動参加48名(43%) 2年: 学校説明会参加45名(39%)、インターンシップ参加27名(23%)、いずれかに参加59名(51%) 3年: 社会貢献活動参加40名(37%)	1年 B 2年 A 3年 B

(3) 教職員がワンチームとなり、協力しながら業務を遂行するとともに、業務のスリム化・効率化及び時間管理意識の高揚を推進し、実践する。

担当	具体的方策	達成基準	達成状況(2月1日時点)	評価
教務課	個々人が時間管理意識を持ち、基本的な仕事の進め方(報告・連絡・相談)を担当者間(課長等含む)で共有し、定期考査実施、成績処理、科目選択事務、教科書採択事務、入試事務を確実に遂行する。また、「あ・す・か・ぶ・た」を念頭に業務の慣行や仕組みを積極的に見直す。	Chromebookを活用した課内での進捗管理や情報共有を行う。 学校内、課内での「あ・す・か・ぶ・た」に基づく仕組み改善5件以上。	課内業務の全体像を可視化しつつ業務のメモや改善案を共有。 ①課内分掌とファイルサーバー内のフォルダ構成の一致化 ②欠試報告の廃止 ③職員会議資料のペーパーレス化 ④進路指導課と連携した活動報告書の作成手順の効率化 ⑤来年度の新入生登校日の廃止を決定 ⑥さくら連絡網の導入 ⑦百問雑問のClassroom経由返却機能有効化 ⑧行事予定Excelファイルの改良 ⑨単位認定会議、卒業認定会議用資料Excelファイルの改良	A
広報情報課	課内だけでなく、他課や部活動顧問と連携し、業務を遂行する。	・学校評価保護者アンケート回収率60%以上。 ・スクールガイドを充実させるために全部活動の協力が得られる。	新保護者メールを活用して、PTA委員への連絡や学校評価保護者アンケートを実施。保護者アンケート回収率69.6%。スクールガイドの部活動紹介のページは部顧問と協力して、充実させることができた。	A
生活課	各クラス、学年集会、全校集会等で規範意識の重要性を認識させることで各種指導の減少を図り、スムーズな業務が遂行される。	学校評価アンケート(生徒)の項目「社会のルールや日常生活のマナーといった基本的な生活習慣が身につくように指導してくれている」で肯定的な回答が前年度を上回る。(R5:83%)	ルールや日常生活のマナーなど規範意識を高めることが各種指導の予防につながるため、粘り強く声掛けをしながら、機会をとらえて指導していきたい。アンケート結果は、R6:80%。	B
教育相談	・教職員・保護者・SC・SSWと連携をとりながら、生徒をサポートすることで、トラブルを未然に防ぐ。 ・学校生活に関するアンケートや心理検査(i-check)を年2回実施し、生徒の学校環境への適応感や心理状態を把握し、生徒が抱える課題の発見に生かす。 ・生徒に教育相談的視点を持ってかわるために教員研修を実施する。	教育相談室の利用が活性化。(R5:相談室利用 生徒のべ人数73名)	SSW、SC、外部機関を交えてのケース会議を開催し、支援体制の整備を行うことができた。学校生活アンケート、心理検査、学校カウンセリングなど生徒の心理状態の把握をする機会を設け、必要であればSSWやSCにつなぎ、生徒の安全・安心を最優先に早期に対応できた。教育相談だよりを発行できた。	A
進路課	進路課全員で協力し合いながら、業務についての意義や効果・効率を検証し、積極的に業務の改善を図る。	・活動報告書の作成方法の整備及びその活動報告書から調査書を作成する方法を整える。 ・求人票のデジタル化方法とその活用方法を整える。 ・進路課全体で業務改善を行った件数を5件以上とする。	「調査書作成方法の効率化」「求人票の閲覧デジタル化」「科目選択の手引きのデジタル化」「実力診断テストの見直し」「土曜活用講座の見直し」「進路指導におけるアプリの導入」「就職補習の見直し」「校外模試(希望者)の受験内容の見直し」を行った。	A
びぜんのまち活性化プロジェクト推進室	・各年次団、備前市及び関係団体と連携し、円滑な業務運営を実践する。 ・会議を適切に設定するとともに、継続的な活動を意識した資料作成および蓄積を行う。	効果的な推進会議の開催と、室全体での情報共有を行う。	推進会議については、状況に応じて必要時に開催することができた。情報共有については、事前に細かな情報共有とまでいかず、事後報告もあったので来年度はより計画的に早く取り組みを行ってきたい。	B
学年団	1年: 授業の進捗状況、生徒の様子など情報共有を行い学年団として生徒を育てる。 2年: 生徒と向き合う時間を確保する。 3年: 基本的な生活習慣の維持・向上(日々の生活指導によって進路指導に必要な時間を確保する)	1年: 報告・連絡・相談を密にし、各クラスの生徒の様子を学年団で把握する。 教育相談、保健室、授業担当、部活動顧問等と情報共有し、チームとして生徒を見守る。 2年: 学年会は平均月1~2回、時間は17:00を超えないように工夫する。 3年: 年間皆勤者数、欠席ゼロの生徒数の維持・向上、提出物期限厳守70%以上、進路決定後も3年1学期の学校生活状況を維持	1年: 学年会は4~1月で22回(月平均2回 書面開催2回) 2年: 学年会は4~12月で8回(月平均0.9回) 17時を超えることがあった。 3年: 欠席ゼロ51名(47%)、課題提出期限厳守は62%	1年 B 2年 B 3年 B